



薩摩川内市



蘭牟田池 環境保全基本計画 概要版

～ ラムサール条約登録湿地の持続的保全と陸・池・空で体験する本物自然 リアルネイチャー ～

計画の目的

蘭牟田池は、国の天然記念物である「泥炭形成植物群落(浮島)」や国内希少野生動植物種に指定されている「ベッコウトンボ」等が生息し、重要な湿地として2005年11月に「ラムサール条約の登録湿地」に指定され、2025年に20周年目を迎えます。

近年、気候変動に伴う異常降雨や渇水等にも見舞われ、蘭牟田池に生息する自然生態系への様々な影響が懸念されるとともに、地域の高齢化に伴う人口減少等が拍車をかけ、環境保全活動の衰退や、継続的な資金調達等も困難な状況下にあります。

これらの課題を解決するため、自然環境が有する多様な機能を活用する「グリーンインフラ^{※1}」手法を活用して、ラムサール条約の目的である「湿地の保全」と「ワイルドユース(賢明な利用)」を持続的に推進し、ラムサール条約登録時点の環境に「再生」することを目的とします。

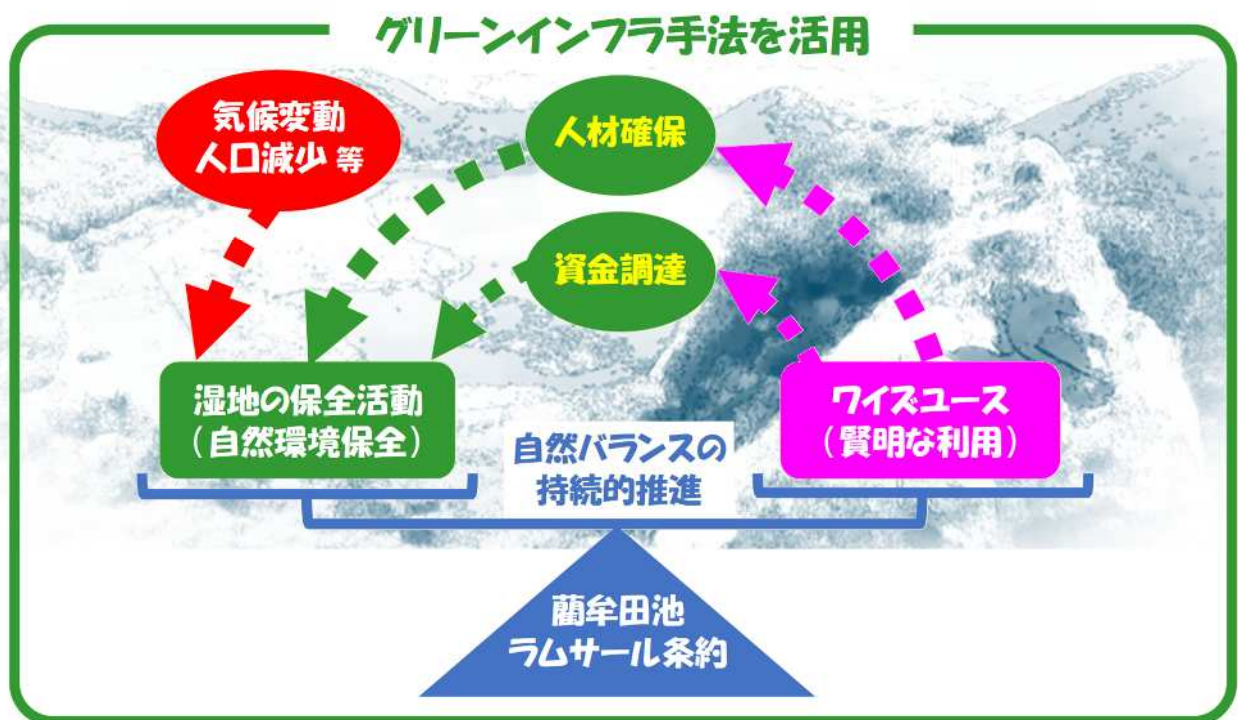


図-1 グリーンインフラ手法を活用した自然バランスの持続的推進

計画期間

計画期間は、ラムサール条約登録20周年の令和7年度から、ラムサール条約登録30周年の令和17年度までの、概ね10年間とします。

※1) グリーンインフラ

グリーンインフラストラクチャー (Green Infrastructure) の略で、自然環境が有する多様な機能を活用し、防災、減災、国土強靱化、新たな生活様式、SDGsに貢献する「持続可能で魅力ある社会の実現」を目指す取組

蘭牟田池の現状

【地理的な現状】

蘭牟田池は、薩摩川内市祁答院町に位置し、周囲を標高 450m から 500m の外輪山に囲まれた水面標高 295m、直径約 1.2km、外周約 3.3km、面積約 60ha の火口湖です。最大水深は約 3.5 m、池の西側 3 分の 1 は湿原化しており、国の天然記念物である「泥炭形成植物群落」をはじめ、国内希少野生動植物種であるベッコウトンボの生息地保護区、貴重な湿地としてラムサール条約の登録湿地に指定されるなど、自然豊かな県立自然公園です。



【歴史の現状】

蘭牟田池周辺には、膳をそなえた竜神祭祀の場所と思われる膳取石（銭取石）や、長寿、幸福、増長の御利益のある毘沙門天祠、古代人の祭祀遺跡と思われる山王岳環状列石、阿弥陀如来を本尊とした瑞奥寺跡と残存する山王岳木造仏三尊像等、歴史的に重要な文化財が点在しているとともに、蘭牟田池に伝わる男竜、女竜の夫婦竜神の悲話「竜石伝説」等が残されています。



【施設の現状】

既存の施設としては、蘭牟田池の形成過程や生態系を紹介する「生態系保存資料館アクアタイム」や池畔散策路、外輪山遊歩道、野外ステージ、遊具広場、キャンプ場等が整備されていますが、経年変化や老朽化も見られる現状です。また、蘭牟田池へのアクセス道路や周回道路及び駐車場にて、適正な維持管理や植樹に対する天狗巣病等への対応が求められています。



【動植物の現状】

蘭牟田池には、マコモ群落、ヨシ群落等の挺水植物から形成される天然記念物の泥炭地（ピートランド）や、ベッコウトンボ、チョウトンボ、アサギマダラ、ミサゴ、アカハライモリ、カヤネズミ等、多様な希少野生動植物の生息が確認されています。



【貯水位や水質等の現状】

毎年 6 月上旬～10 月上旬までの期間は、農業用水の取水が行われ、6 月の梅雨時期は、水位が上昇することが多く見られます。

過去 8 年間（平成 27 年～令和 4 年）における月平均水位は 85 cm であり、生態系には厳しい高めの水水位が観測されています。

水質は中性ですが、腐食栄養湖に分類され、泥炭の影響で池の水は多量の腐植質を含み、水の色は茶褐色に濁っています。



現状から見た課題

【自然環境の変化に関する課題】

- 高齢化による後継者不足と継続的な資金調達が困難なため、種の保存のために重要な周辺の水路の浚渫や土手の草刈など手入れが行き届いていません。
- 人によって持ち込まれた特定外来生物に指定されているブルーギル、オオクチバス等の外来魚がベッコウトンボを捕食しています。
- 外来魚が確認されて以降、オイカワ、カワムツ、メダカ、ドンコ等の在来淡水魚が絶滅しました。
- 観光目的で放鳥されたコブハクチョウにより、ジュンサイ等の浮葉植物群落が消滅しました。
- 蘭牟田池の貯水位が高いことで泥炭形成に関わり、ベッコウトンボの生息環境としても必要な、ヨシ群、マコモ群等の長期間の水没により、根茎部が酸欠状態に陥り枯死、植物群落面積が減少しています。
- 爬虫類の優先種がツチガエルからヌマガエルに交代しましたが、原因は不明です。
- 公園利用者の持込みにより、外来生物法で条件付特定外来生物に指定されているアカミミガメが繁殖しています。
- 観光客の餌まきにより、これまで冬季に越冬した渡り鳥が春季に渡りを行わず越夏し、生態系への影響が懸念されています。
- 総合対策外来種に指定されているキショウブが繁殖し、湿原の絶滅危惧種と競合または絶滅危惧種を駆逐する恐れがあります。



【蘭牟田池の貯水位に関する課題】

湿地の生態系は、水環境に適応しており、水位の変化に脆弱です。平成21年の渇水により以降3年間はベッコウトンボの確認数が激減しました。

渇水の経験により、十分な農業用水を確保するため、近年の貯水位は高く、湿生植物が酸欠により根腐れを起こして死滅し、生態系としては厳しい状況となっています。適正水位を維持し、生態系の保全と農業用水としての共存を図る必要があります。



蘭牟田池 環境保全基本計画 展開方針



～ 基本理念 ～



ラムサール条約登録湿地の持続的保全と陸・池・空で体験する本物自然 リアルネイチャー



方針 1 官・民・地域協働による環境保全活動の推進

貴重な自然環境を維持するため、官・民・地域協働で持続的な環境保全活動の展開を図ります。

方針 2 環境保全活動を担う人材育成

既存の生活圏と自然環境保全区域との「ゾーニング区分」を明確にするとともに、その重要性を継承・啓発できる人的資源の確保を官・民・地域協働で行います。

方針 3 多様な主体が参画する環境保全活動資金の確保

環境に配慮したプロジェクトに興味のある民間投資家からの初期支援（グリーンボンド等）や不特定多数の賛同者から支援を頂くクラウドファンディング、縁のある地域へ恩返し等ができる企業版ふるさと納税等を活用し、「ラムサール条約登録湿地」の陸・池・空の本物自然体験を行う環境を整備し、収益の一部を持続的な環境保全活動に充てる仕組みを構築します。

Action I 自然環境保全

蘭牟田池に生息する植物・魚介類・鳥類・昆虫類等の外来種対策の推進、生態系保全と営農に配慮した貯水位の調整、環境学習の場となる施設の拡張、アクアタイムのリニューアル及び利活用の促進等を検討します。



Action II 景観

四季の自然景観やベッコウトンボ・ヒメボタル・泥炭地等、貴重な動植物と触れ合える景観の維持と、外輪山登山（低山ハイク）へと誘う良好な景観形成の推進、竜石伝説に触れる恋愛成就のパワースポット誘致、遊休地・遊休施設・既存店舗等のリニューアルやその手法を検討します。



Action III 交通・アクセス

新交通システム（EV）やキックボード等の導入により、イベント時の蘭牟田池周遊交通の確保や、一方通行規制・パーク＆ライド等も含めた駐車場対策の推進を検討します。



Action IV 自然体験

蘭牟田池の貴重な動植物を活かした四季毎の自然観察会の開催を推進するとともに、周辺の立入制限の明確化や適正なルールの見える化について検討します。



Action V アクティビティ ※2) P.1

蘭牟田池を代表する池面の水上アクティビティ、アウトドアビギナーを対象としたキャンプ・低山登山等の陸上アクティビティ、外輪山の眺望やパラグライダー体験等の空中アクティビティを推進し、本物自然体験の拠点を目指します。



Action VI イベント

キッチンカーが並ぶ「いむた池マルシェ」等の昼のイベントや、落葉した池畔林を活用した水面に映える夜のイベント、スポーツや自然観察等の体験型イベントを推進し、ラムサール条約登録湿地の認識向上と自然環境保全の啓発を図ります。



Action VII キャンプ・宿泊

蘭牟田池周辺は、陸・池・空の本物自然体験を満喫できる「アウトドア資源の宝庫」です。家族連れやアウトドアビギナーにも配慮した「お手軽キャンプ」をキャッチフレーズに、民間資本等も活用した観光客誘致を推進します。



Action VIII 食事・買物

自然体験や観察会等の誘客推進を目指し、民間資金等の活用も視野に入れ、地域独自の既存資源等を活用した食事処、買物の場の確保に向けた取組を検討します。



ラムサール条約登録湿地の持続的保全と

高千穂峰

手漕ぎボートによる野鳥観察

ラクウショウ自生地

飯盛山

片城山

トレイルランニング

ジップライン(とんぼ体験)

遊休地の花畑



陸・池・空 で体験する リアルネイチャー 本物自然 のイメージ

※2) 各アクティビティや施設整備箇所については、自然環境保全やワイズユース
(賢明な利用) も踏まえ、各関係者と共に、今後、協議・検討して行く予定

森林浴・フォレストアドベンチャー

桜島 ▲

外来魚釣り



舟見岳 ▲

交葛山 ▲

竜石 ▲

蘭牟田池

山王岳 ▲



池畔のキャンプ場



貴重種の人工飼育



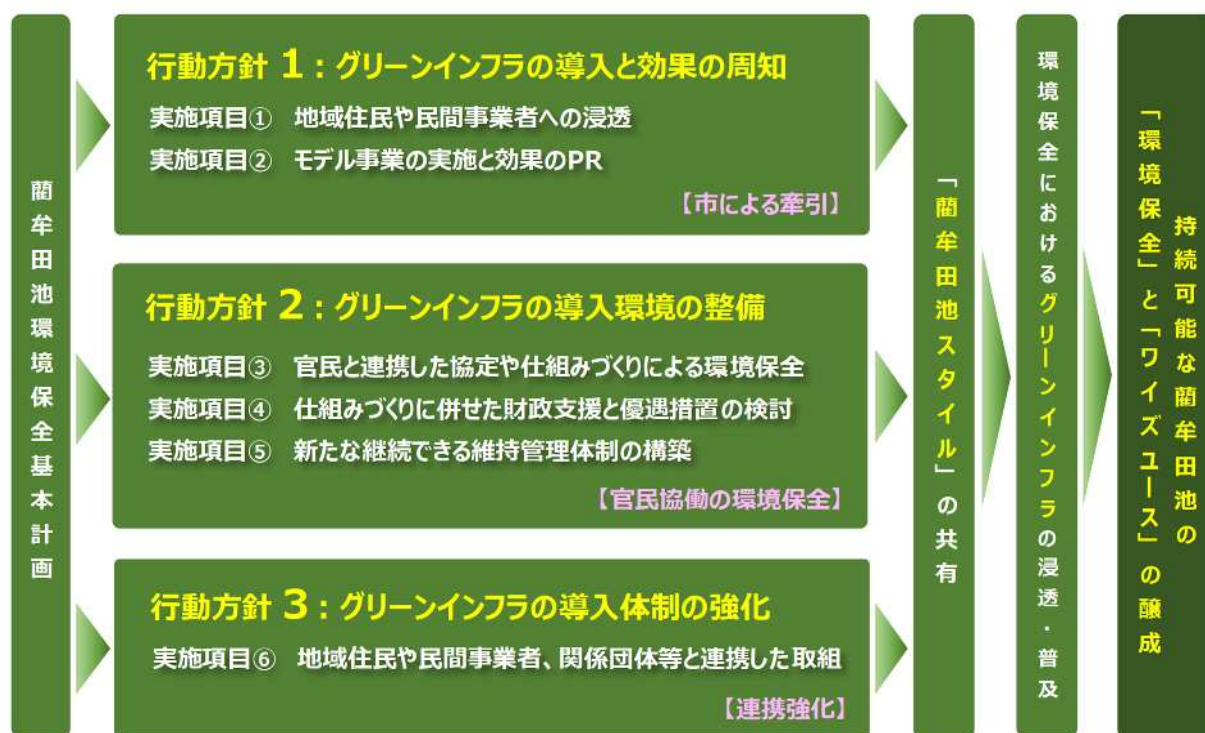
バードウォッチング

行動方針及び推進体制

グリーンインフラを導入した「**蘭牟田池環境保全基本計画**」の実現を目指し、今後、3つの行動方針を相互に連携させたアクションプランを定めます。

まずは、2025年のラムサール条約登録の20周年に伴う**記念イベント**の開催により、再度、蘭牟田池の魅力を発信します。その後、「**持続できる環境保全**」、「**ワイズユース(賢明な利用)**」の展開へ向けて、実現可能なものから着手します。

加えて、現在、同時進行中である「薩摩川内市東部区域（樋脇・入来・東郷及び祁答院）観光振興ビジョン」との連携も図りながら、取り組んでいきます。

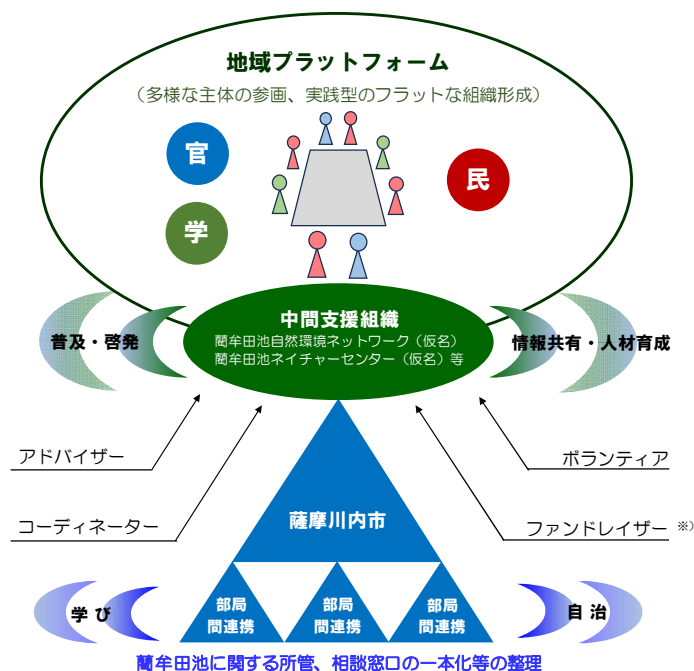


行動方針と実施項目の体系図

蘭牟田池の環境保全基本計画にあたっては、グリーンインフラを有効な手段と捉え、今後、官民学の多様な主体が参画した組織形成が求められます。市は、中間支援組織等を介して、地域の実践的かつ主体的な取組を支えています。

※) ファンドレイザー

主に民間非営利団体での資金調達を専門に扱う職業。その役割は、「社会のために何か役に立ちたいと思っている人たち」と「社会の課題を解決している人たち」を繋ぐことにある。



計画推進体制のイメージ